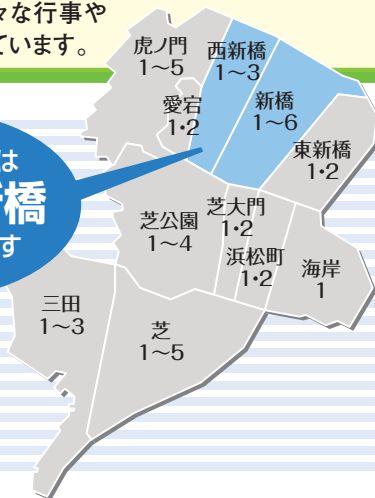


『芝地区地域情報誌』は、地域の皆さんとともに創る情報誌です。芝地区の「いい話」を紹介したり、様々な行事や活動の情報を交換したり、地域の皆さんと一緒に地域のことを考えていく場として、地域情報誌を発行しています。

汐留に向かって見た開発中の環状第二号線

生まれ変わる
新橋～虎ノ門

第5号のエリアは
新橋・西新橋
エリアの話題です



環状第二号線 (マッカーサー道路)

再開発事業の経緯

環状第二号線は、第二次世界大戦終戦直後の昭和21(1946)年、戦災復興院(現・国土交通省)が、新橋から赤坂・四ッ谷を経て神田佐久間町までの延長約9.2km、幅員100mの道路として都市計画決定したのが始まりです。当時、この決定に対して地元住民より廃案要求があり、整備は実現されませんでした。その後、昭和25(1950)年に幅員が100mから40mに変更されました。

連合軍総司令部(GHQ)が虎ノ門の米国大使館から東京湾の竹芝桟橋までの軍用道路整備を要求したなどの俗説もあり、最高司令官の名にちなんで「マッカーサー道路」と称されるようになりました。

昭和55(1980)年、再び整備が検討され、港区議会、港区長とともに廃案要求を表明しました。

昭和62(1987)年6月、東京都の臨海部副都心開発基本構想が公表されたことにより、環状第二号線が重要視されることになりました。10月には、建設に反対する地元住民により、「環状第二号線道路計画廃案住民大会」が開催され、即時

廃案の決議が採択されました。

平成元(1989)年の立体道路制度創設を契機として、道路整備とビル建設とを併せて行う市街地再開発事業による街づくり提案が浮上してきました。すでに環状第二号線は神田佐久間町から赤坂を経由して虎ノ門までの区間で共用(外堀通りの一部)されており、また、平成5(1993)年には有明まで約4.7kmが都市計画変更されて延伸となりました。このため両区間をつなげる新橋～虎ノ門間の整備が緊急課題となってきました。

平成8(1996)年11月、「地区まちづくり協議会」が設立され、東京都と地元住民による事業実施に向けた話し合いが開始されました。

平成14(2002)年10月、市街地再開発事業の事業計画の決定が行われ、12月には、「環二地区再開発協議会」が発足しました。この協議会は、譲り受け希望を申し出て受理された権利者と、事業施行者である東京都及び地元区である港区、並びに事業協力者で構成され、この4者が協議することにより、相互に理解を深め、事業が円滑に推進することを目的としています。協議会には地区全体について話し合う「総務部会」と街区ごとの問題を話し合う3つの部会「新橋街区部会」「青年館街区部会」「虎ノ門街区部会」を設置しています。

★中面に関連インタビュー記事があります！



芝地区 の風景

名画座のぬくもり ～新橋文化劇場～



新橋3-25-19
TEL 03-3431-4920

新橋駅の高架アーチは明治期に誕生し、現在も美しい赤煉瓦アーチが残されており、ガード下には多くの飲食店などが軒を連ねています。

歴史の背景をも味わいながら烏森口から浜松町方面のガード沿いに歩くと、新橋ガード下の顔のひとつ、名画座「新橋文化劇場」が見えてきます。全国でも貴重になりつつある名画座を、ここ新橋で楽しむことができます。

文化劇場の入口には、2つの時計が仲良く並んで「只今の時間」と「お帰りの時間」

が一目でわかるようになっており、映画を見る人への心遣いが伝わってきます。昭和30年代初めに設立された当時、ニュース専門館(今はない)を含め三館が並んであったと語ってくださったのは支配人の小田光久さん。映写室では、所狭しと置かれた大きな2つの映写機の傍らで、暑さの中、自ら手早くフィルムをさばきます。「映写機を扱えるようになるのには2～3カ月かかります」と汗を光らせながら、笑顔で話してくださいました。

名画座のぬくもりは新橋の文化として生き続けています。(写真・文/桑原庸嘉子)



環状第二号線 への思いはひとつ 「子孫に感謝されるまちづくり」を願って…

環状第二号線道路計画が昭和21年に都市計画決定されてからすでに60年余りが経過。ようやく完成に向けて、工事のスピードが加速してきました。

現在に至るまで、この道路計画に対して数々の活動、提案を行っている新橋の四倉榮次朗さん、西村春夫さん、石坂好一さんに計画当初のことやこれまでの活動、そして、この環状第二号線への思いをお聞きしました。

●計画当初から「マッカーサー道路」と呼ばれていたのでしょうか？

西村 昭和21年には私は17歳でした。学徒動員先の北海道からこっち（新橋）に戻ってきたときに、「マッカーサー道路」の話が出ていました。

四倉 マッカーサーが日本に來たのは昭和20年8月30日です。「マッカーサー道路」は、新橋から虎ノ門のアメリカ大使館に向けて幅100mの道路を造る計画で、当時は幅が非常に広ために飛行機の滑走路じゃないかというような風評が流れていました。

●昭和25年に幅100mから40mに変更になったときの周辺住民の反応はどうでしたか？

四倉 その頃から反対運動はありましたが、積極的になってきたのは昭和30年頃。道路区域内の人と区域外の人では極端に不公平でした。道路区域外の人とは東京オリンピックによる建設ブームでビルを建てました。ところが、道路区域内の人は建築制限によってビルを建てられませんでした。それで反対運動が激しくなり、道路計画が廃案になりかけました。

西村 東京都は道路区域内の建築制限の緩和や固定資産税を安くするなど優遇策を採っていましたが…。

●昭和30年代以降はどう変わっていききましたか？

四倉 世の中が落ち着いてきて、本業に専念できる時代になってきました。インフラもだんだん落ち着いてきました。その頃の活動については、記録があまり残っていません。

西村 昭和40年以降は東京都も私たちも体戦状態で静かでした。**石坂** 東京都は地元が反対しているから無理だと判断したのだらうと思います。何か言えばすぐに「反対!」っていう状態でしたから…。それが20年ぐらい続きました。それからバブルの時代に入って、地価がものすごく高騰して東京都が補償を払えるような状態じゃない時代になりました。

四倉 オイルショックの頃からまた活動に火がついてきました。その頃、横須賀線からヒトを得て大深度地下道方式を思いつきました。この方式は道路を地中深くに建設することで、住民は地上部にビルを建てることができるようになり、東京

都も土地の買収費用がかからないので一挙両得であり、最適であると訴えてきました。後にマスコミからこの方式についての取材を受けました。

西村 昭和48年頃の土地はまだ比較的安かったのですが、物価が急激に上がってきて、それに伴って土地価格も上がり、そしてバブルが到来しました。その頃から賛成と反対で意見が分かれてきました。

石坂 このまま廃案運動を続けても東京都はこの計画を100年でもずっと進めずに放っておきそうでした。それは問題だから、道路計画を推進して、地区が発展する方向に要望を転換することになりました。

●色々な意味で苦しい時を過ごされた経験の中から「街づくり」への関心が高まり、最近、「環状二号線新橋地区 環境・まちづくり協議会」も発足したと聞いております。最後に環状第二号線道路計画に対する思いをお聞かせください。

石坂 四倉さんの言葉で「子々孫々」という言葉がよく出るけれども、その人たちのために私たちが活動しています。

西村 まちが環状二号線と調和のとれた、将来にわたって誇れるまちとなるよう、活動を行っています。

四倉 一度道路が造られると子孫末代まで変わりません。「子孫に感謝されるまちづくり」をしたという理念で活動を行っており、それは最初からいまだに変わっていません。新橋が新しいまちとして、皆さんにとってより良い環境になればと願っています。



左から石坂好一さん、四倉榮次朗さん、西村春夫さん

大使館で取材した郷土料理 ②

🇦🇺 オーストラリアのお菓子『ラミントン』 LAMINGTONS



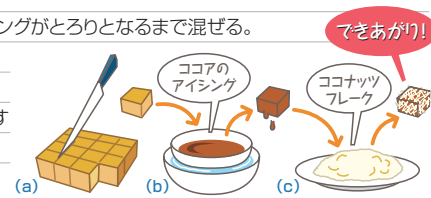
【材 料】(16個分)

＊ケーキ	
＊市販のスポンジケーキでもOK	
卵	6個
グラニュー糖	約4/5カップ
コーンスターチ	約2/5カップ
小麦粉	約3/5カップ
ベーキングパウダー	1つまみ
＜アイシング＞	
粉砂糖	5カップ
ココア	約3/5カップ
バター（溶かしたもの）	15g
牛乳	約4/5カップ
＜トッピング＞	
ココナッツ	2と1/2カップ（すりおろされたココナッツフレーク）

- 【作り方】
- ・23cmの四角いケーキ型の内側にうすく油を塗る。
 - ・オーブンを180℃に熱しておく。
 - ・中型のボールで卵をハンドミキサー（又は泡立て器）で10分ぐらい（クリーム状になるまで）かき混ぜる。
 - ・グラニュー糖を2、3回に分けて加え、溶けるまでかき混ぜる。
 - ・ふるいにかけた粉類も入れてさっくりと混ぜる。
 - ・準備した型に生地を流し、180℃のオーブンで30分焼く。
 - ・焼き上がりたら、あら熱をとって型から出して、冷めると網の上に置く。

～市販のスポンジケーキを使う場合はここから作ります～

- ・耐熱のボールに粉砂糖とココアをふるいにかけながら入れる。
- ・バターと牛乳も加えて混ぜる。
- ・ボールを湯煎にかけながらアイシングがとろりとなるまで混ぜる。
- ・ケーキを16の四角に切って (a)、
- 1つずつアイシングに入れて (b)、
- その後ココナッツフレークをまぶす (ココナッツの上に転がす) (c)。



作って みました！

チョコレートとココナッツでコーティングされた甘いケーキ、ラミントン。日本ではそれほど知られていませんが、オーストラリアでは身近で伝統的なお菓子です。三田2丁目にあるオーストラリア大使館広報文化部の方から紹介され、豪日交流基金の資料を参考に作ってみました。ケーキを焼くのが大変!という場合は、市販のスポンジケーキで代用してもOK。ふわふわのケーキとチョコレート、ココナッツのさわやかな風味に思わず手が伸びます。多文化の国オーストラリアに根付く伝統の味、皆さんも試してみませんか？

できあがり!

資料提供: 豪日交流基金 (オーストラリアのお菓子レシピ) <http://www.library.australia.or.jp/kidsclub/recipe>

芝家具の伝統を 青木 雅文 さんに聞く 支えた挽物師

『芝家具』の思い出と 『環状第二号線』への期待



青木雅文さんは、新橋4丁目で終戦から平成18年まで「青木挽物製作所」を営んでいました。挽物とは、ろくろを使って木材を回転させ、ノミで削りながら丸い形にする製品のこと。青木さんは60年近く、一流の家具の代名詞とされた「芝家具」の丸テーブルや椅子の脚などを作っていました。

親子三代にわたり住んでいた製作所は、環状第二号線再開発の区域に入り、現在は浜松町へ移転しています。青木さんに芝家具の歴史と環状第二号線への思いをお聞きしました。

芝家具が戦後、一時的に繁盛したのは、駐留軍の関係からだったと思います。駐留している彼らが使用する家具の注文がすごく増えました。そのため、休みは月に1～2日、朝8時ぐらいから夜11時頃まで働き詰めでした。また、当時は木材が不足している時代でしたが、新橋地域には家具専門の材木店が何軒もあり、量をまとめる関係上、ラワン材など南洋材も使われました。思い出としては、駐留軍の人がチェスの駒を持って来て、「作って欲しい」と言われたことがありました。代金の代わりに当時では珍しい缶ビールをもらいました。言葉はわからなくても、身振り手振りで充分でした。軍関係の仕事が一段落して、公共施設(裁判所、国会)などや民間の仕事も増えてきました。環状第二号線再開発の区域には、初めは我が家が入っていませんでした。道路計画があることを知って説明会には出席していましたが、今思えば「対岸の火事」的な立場でした。平成12年に、事業区域を拡大する都市計画変更があり、我が家も区域に組み込まれてしまいました。東京都には、幾度か意見書を提出しました。しかし白紙に戻すことはできず、公共の用に供することになりました。計画が決定しているので、次世代に誇れる素敵な道路ができて上がってほしいと思います。(談)



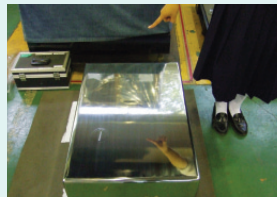
必殺☆裏の仕事人！！ 繊細かつ敏感な『はかり』

東京都計量検定所 本所・タクシーメーター竹芝検査場

います。また、この日以外も、小学校へ出かけてイベントを開くなど、意外と身近で活動をしているのです。

あまり意識しない計量器、ちょっと調べてみるとおもしろいですよ！

(芝商業高等学校：飯島美咲／阿部祥子／岡本佳緒)



1トンのおもり



1ミリグラムのおもり



海岸1-7-4
TEL 03-5470-6635

大使館で「世界」を知り、「日本」を知る

三田高等学校周辺大使館を訪れてきました。そこで聞いた、たくさんのお話の中から一部を紹介します。今回の取材を通じて、更に見識が深まったような、そんな貴重な体験でした。

(三田高等学校：宇都翔平／長田圭統／川田政弘／神原永昌／嶋田康平／都築卓弥／松浦勇真／見月健一郎／村社祐太郎)

チリ共和国大使館

チリでは鉄道がほとんどなく、バスが多いので、混雑している車内では席を譲り合う精神が強いです。

応接室には、チリ中心部にある「オソルノ山」という富士山に似た山の写真がありましたが、この山はチリの人々に、「チリ富士」の呼称で親しまれているそうです。

日本人の印象は「働き者でそれ故に家族の団圓が少ないのが悲しい。チリでは、家族を大切にできる人はすべてを大切にできる」という考えがあるそうです。家族と折り合いのつかない時は仕事を変えようです。



モザンビーク共和国大使館

平成11(1999)年に渋谷から三田に移転しました。国民の大半がカトリック教徒で、子どもや老人を大切に、また赤ん坊は未来の発展のために特に大事にされるそうです。赤ちゃんポストについて尋ねてみると「預けられる子どもがいるという事実はとても悲しい」との事でした。

日本の印象については、経済大国や技術力が高いなどの話でしたが、文化面では侍や空手の色が濃く、今の日本とはかなり違うようです。

日本へのアピールは、長い海岸線と、海老や蟹などの海産物と語ってくださいました。



おさないみえこ 小山内美江子 さんへインタビュー

第1回



「戦場に行くことがどういうことか よくわかって行くのも気になりますが、 あまりわかっていないような気がします」

浜松町1丁目にある特定非営利活動法人「JHP・学校をつくる会」の代表を務める小山内美江子さん。『3年B組金八先生』の脚本家としても知られています。今回は第1回として「難民キャンプでのボランティア活動」についてのお話をお聞きしました。

(次号以降、第2回「カンボジアと金八先生」、第3回「世界へのメッセージー 平和憲法」を予定しています)

難民キャンプでのボランティア活動、 カンボジアなどに学校をつくる活動など、 始められたきっかけは何でしょう。

私が難民キャンプでのボランティア活動に踏み出したのは平成2(1990)年、イラクのフセインがクウェートに武力侵攻したとき。日本は多額の資金を出したにもかかわらずひどく叩かれて、それで「顔の見えない日本人」「何を考えているのかわからない日本人」と言われたので、逆にこんな顔でよかったら見てほしいということでヨルダンの難民キャンプに行ったのが最初でした。

母が91歳で他界し、大河ドラマ「翔ぶが如く」をちょうど書き終わったころが、湾岸危機でした。母が亡くなったときに、これから先どうやって生きていくか真剣に考えました。60歳でしたから、子どもは独立している、介護していた母はいない。大変ではあったけれど、どこか介護から解放された気持ちがあるのです。それは、とてもつらく淋しいことですが、大事にしなければならない気持ちだろうと思っていました。母に「人様に後ろ指を差されないような生き方をしなさい」という風に言われて育った私としては、世界中から日本が叩かれているのが残念でならなかった。普通だったからできないが、ちょうどそのとき、時間的しがみがなかったので、それでヨルダンまで行ってしまった。

それとも1つ。今、いわゆる普通の国になるのか、集団的自衛権がどうか本心に心配です。JHP・学校をつくる会は学生がいっぱい来ている。なにが事かあれば彼らが当事者となります。戦場に行くことがどういうことかわかって行くのも気になりますが、あまりわかっていないような気がします。まずは、自分が体験することだと思います。それから、私は作家ですので、常に好奇心があります。

イラクには、アジアからたくさんの人が出稼ぎにきています。ヨルダンに避難した難民ですが、あんなにたくさん民族に接したのは初めてでした。みんな戦争になってほしくない、もう一度イラクに戻って仕事をしたい、働いたお金を故国の家族へ送りたいってみんなそう思っていたんです。でも、結果的には湾岸危機が湾岸戦争になってしまっわけです。日本は憲法や法律に縛られて、自衛隊は出られません。どこが悪口言おうがね。じゃあ、民間がどこまでできるのかという思いがあったんです。やっぱり現場へ行ってみたいいろんなことがわかるんです。

その時って、まったくの 初心者で飛び込んだんだと聞きましたが…。

東京タワーの近くで、ケン・ジョセフというアメリカの青年がボランティア活動を行っていました。彼のコーディネートで日本の若者はすでに難民キャンプに行っていて、無事に帰って来てたんです。そんなことを全然知りませんでした。新聞を見てはじめて知ったのです。「あら、行けるんだわ」と思ったので、彼を訪ねたんです。そうしたら、「行ってください。全部段取りしますから」と。そう言われて急に不安になりました。「英語が弱いから」と言ったら、「難民の人はすごく不安でいるから、日本人が来たというだけでも自分たちが世界から見放されているとは思わないだろう」って。それは大切なことだと思ったんです。

私のお友達が一緒に行くと言ってくれたので、息子に「ヨルダンに行く」って電話したんです。何が起きるかわかんないですよ。何でお袋はヨルダンで死んじゃったんだと思われちゃって困るんで。戦争になったら帰れなくなって、私も難民になってしまうと思いましたから。そうしたら、次の日に、息子が「僕も行きます」って。慌てふためいて、「あんたはまだ若いんだから駄目。私は還暦だからういいの」って言いましたが、本当はまだやりたいことはたくさんあるんですけれどね。でも、息子は「僕の友達もいきます」

ってということなんです。そして、結局、おばさん2人、青年3人、お嬢さん2人の計7人で行きました。

ヨルダンでの活動が終わって年内に日本へ帰ってきたんです。そうしたら、アメリカの友人から誘われてアトランタへ行くことになりました。これから戦争になるっていうのはわかっていましたからアーリントン墓地に行きたかったんです。この中では前の戦争で日本人を殺し、日本人に殺された兵隊さんが眠っているんだ。今度もまたここに何人もの若い米兵が眠るんだらうって思ういで行ったんです。近くのホテルにこれからイラクに出発する兵隊たちが泊まっているですよ。すごく変わった風景がありました。ママが迷彩服を着て、パパがベビーを抱っこ、という私が見た何十年前の風景とはまったく逆でした。銃後の妻が子どもを抱いて、「おとうさん、無事に戦死してきてください」って。こんな馬鹿な話はないんですけど、そういう時代があったんです。そういうのがまったく逆だったですね。あの年からアメリカの女性兵士は前線に出てよくなったんです。でも、このママには死んでほしくないと思った。それが、戦争前のアメリカの風景でたね。日本に帰ってきて戦争になったわけですけど。

ヨルダンで取材されたことが新聞に出て、それで一緒にやりましょうと声をかけてくれた人が危機管理の第一人者の佐々淳行さん、あと平山郁夫さんとか二谷英明さんでした。内情はみんな60歳のおじいさんおばあさん。佐々さんは昭和5年生まれ、平山さん、二谷さんもみんなあの戦争が終わったひといときに15歳でした。すごく不思議でした。私はとことん15歳にこだわって、だからあの3年B組も15歳なんです。

最初「平和」をあたりまえと感じている大学生 が行って大丈夫かといった思いはありましたか？

不用心ですよ、日本の子は。平和で、自由で、安全で、豊か。この安全はいま日本で危なくなってきましたが、それにもかかわらず、不用心。カンボジア活動でもホテルでは、「必ず鍵をかけなさい」って言っているでも女子学生の部屋のドアを叩いたら、それだけで開けたんです。「確かめた?」と言ったら、「ああ〜」って。ベッドに財布が置いてあるじゃないの。人を見たら泥棒って思っているのはいやだけれど、泥棒を誘発しただけの危機管理感覚は持っていてほしいと私は思う。でも、なかなかいいですよ学生は。釘叩けて言うとか指叩いたり。ハンマー取ってって言ったら、「どれがハンマーですか」って。それが、現地で一か月経つと自分で考えて行動し、自分で責任を取るのが自立というんです。そういう若者になって頂戴なんてかっこいいこと言ってます。

そうしたら、阪神の大地震のとき、JHPの学生が続々と神戸へ駆けつけました。あの頃ボランティア難民というスローモーションが出現したけれど、凄まじいニュースを見たら自分も役に立ちたいと思って駆けつけたんですね。長田区役所あたりに行くと、「何かさせてください」。だけど、そこの人自身が被災者でわからないわけですよ。それは難民ですよ。自分たちの寝るところがないなら寝袋を用意し、電気来てなければ、情報が取れない。それで、小型ラジオを持っていた。水が出ない、洗たくできない、それで、一週間分のパンツを持っていたJHPの若者は、ボランティア難民とは一味違います。本当に一か月カンボジアでいろいろやってきた子たちは、そこでまた最高に自分たちが工夫します。たとえば、トイレが大変だったけれど、カンボジアのトイレの大変さも経験しているからたどるがない。一方、被災者マップを作るとか陰の仕事をやったそういう子たちも私は誇りに思うんです。



JHP・学校をつくる会について

今年の7月に六本木から浜松町に事務所を移転した特定非営利活動法人「JHP・学校をつくる会(認定NPO)」は、平成5(1993)年よりカンボジアを中心に学校建設、音楽・美術教師育成などの地域に根ざした国際協力に携わっています。同時に「国際ボランティア活動」の実践として、カンボジア、アフリカ諸国、旧ユーゴスラビア、インド、国内災害救援活動などに総勢1000名を超える若者を派遣しています。

浜松町1-25-11 宮下ビル4階
TEL 03-6411-5261 <http://www.jhp.or.jp/>



笑顔があなたを待っています。

くつろぎの時を「喫茶たんぽぽ」でどうぞ！

芝1丁目の港区立障害保健福祉センター1階にみなと障がい者福祉事業団が運営する『喫茶 たんぽぽ』があります。

4名の知的障害者の方々が日々元気に楽しく、お客様とコミュニケーションをとりながら働いています。昨年の10月にメニューを改定して、日替わり定食を始めました。ハンバーグ定食やコロツケ定食などがあり、お客様には人気のメニューとなっています。

事業団の指導員でもある店長さんは、「お昼のひとときを楽しんでもらえる場所であるように心がけています」とお話ししてくださいました。明るい日差しの差し込む店内で、くつろぎの時を過ごしてみたいかがでしょうか？



サクサクのコロツケ定食(¥600)

Info 芝1-8-23 障害保健福祉センター1階(ヒューマンぶらざ)
TEL 03-5439-8063
営業時間：AM9:30～PM3:30 ラストオーダー 定休日：土日祝
<http://www.minato-jigyodan.org/tanpopo.htm>

新橋店もあります。ご利用ください。
新橋3-16-3 港区立生涯学習センター1階(ばるーん)
TEL 03-3431-1609
営業時間：AM10:00～PM5:30 ラストオーダー 定休日：月日祝

レポート1

第1回 みなと芝地区 クリーンアップ大作戦2007

Report by
太陽生命保険株式会社

7月7日土曜日、梅雨もちょっと小休止の中、「みなと芝地区 クリーンアップ大作戦2007」を実施いたしました。当社では、昭和57年から本社周辺の清掃活動に取り組み始め、平成16年からは「全国一斉クリーンキャンペーン」として全国の支社にまで規模を拡大し、地域に根付いた活動となるよう継続しています。



今回の芝地区での「クリーンアップ大作戦」は、昨年8月に中央区日本橋から浜松町(海岸1丁目)に本社を移転してから初めてで、当社役職員とその家族に加え、みなと環境にやさしい事業者会議のメンバー会社のうち日比谷総合設備(株)、(株)DTS、日本道路(株)、清水建設(株)、ユニ・チャーム(株)からも参加いただき、総勢230名の活動となりました。

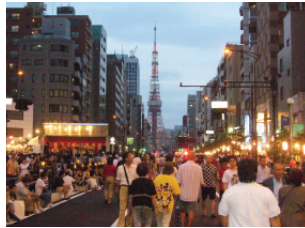
ゴミの方はいっぱい、あいかわらずタバコの吸い殻が多く、また植栽の植え込みの中にはペットボトルや空き缶も捨てられており、ゴミ袋は相当な量になりました。

今回は港区環境課、芝地区総合支所から清掃用具の貸し出し等多くのご協力をいただき、またみなと環境にやさしい事業者会議のメンバー会社であるサントリー(株)、らでいっしゅぼーや(株)から飲料や野菜を参加者に提供いただいたほか、区民サポーターの主婦の方々からはカレーライスがふるまわれ、参加者にとっても思い出深い活動となりました。この活動が港区でも根付いていくよう、取り組んでまいります。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

レポート2

第35回 町ぐるみ三田納涼カーニバル

「町ぐるみ三田納涼カーニバル」が7月21日(土)夕刻に三田通り(三田2丁目交差点～札の辻交差点)で開催されました。



三田通りの景観整備事業が今年の春に終了し、新たな三田通りでの初めてのカーニバルでした。天候にも恵まれ、ご来場の皆様には本場ブラジルのサンバチームなどを楽しんでいただけたことと思います。

東京タワーのライトアップが綺麗に見える三田通りにぜひ一度お越しください。

(中村輝彦実行委員長談)

レポート3

第12回 新橋こいち祭

新橋駅前SL広場、桜田公園周辺で「新橋こいち祭」が7月26日(木)、27日(金)の2日間開催されました。「会社帰りに1時間、新橋で遊んでください」ということから「こいち」と名付けられました。

主催は、新橋地区の町会・商店会で構成する新橋こいち祭実行委員会。このお祭りを通じて、人が集まる拠点・情報発信拠点としての活気溢れる新橋の未来に繋がる新しい街づくりを目指しています。



お祭りのマスコット「こいち」

心の風景 子ども編

「崖のぼりにいくよ」

芝公園児童館を利用する子どもたちの遊び場の一つ都立芝公園。新緑の夏、遊んでいると、蚊の大群に襲われ、子どもたちが一斉に逃げた体験もあったとか。



何かいるかな？ 小枝を拾って、突いてみよう…

《撮影：芝公園児童館 廣瀬吉政(小学3年生)／細川宗舟(小学1年生)》

Info 芝公園児童館 芝公園2-7-3 TEL 03-3433-6515

作品募集

芝地区
「心の風景」
写真募集

皆さんの心に残る場所・大切にしたいものは何ですか？ 昔から変わらない路地裏、思い出の場所、これからも残し続けたい芝地区のいいところ……写真を募集します。ご応募は芝地区総合支所地区政策課(TEL 03-3578-3191)まで。お待ちしております。



ケーブルテレビの取材もありました



夏休み期間中の7月26日(木)、27

日(金)、新橋児童館で「お泊まり会」が行われました。家族と離れ、異なる年齢のお友達と夕食作りやゲームなどを通して、友達と協力することの大切さを知り、自立心を養うことを目的として、毎年実施しています。

今年の夕食メニューは、サラダソーメン、カレーライス、児童館で栽培された“なす”と“ピーマン”が入った焼きそばです。グループに分かれて作りました。

新橋こいち祭への参加や折り鶴ゲーム、しりとり大作戦など、イベントは盛りだくさん。遊び疲れて、就寝時間にはスヤスヤ…。楽しい思い出となるお泊まり会でした。

Info 新橋児童館
新橋6-4-2
TEL 03-3433-4005

お知らせ 『二葉橋ガード』の安全・安心を考えます！

JR新橋駅の東京駅側を通る外堀通り(都道)にある二葉橋ガード。ここのガード下は、以前から多くの方が暗いなどの不安を感じているということで、地元連合町会から改善要望書が提出されました。それを受け、芝地区総合支所の呼びかけにより、関係機関であるJR、東京都第一建設事務所、芝地区総合支所、地元連合町会の4者による改善に向けての話し合いの場が持たれました。

今後、話し合いを進めていき、皆さんが安全・安心して通行できる環境づくりに取り組んでいきます。

「みなとコール」は暮らしの疑問、お答えします！

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽にお問い合わせください。
年中無休／午前7時～午後11時
※英語での対応もいたします。

ゴヨウ(は)ナーニ ミナト(コールです)
TEL 03-5472-3710
FAX 03-5777-8752
Eメール：info@minato.call-center.jp

芝地区編集委員

地域情報誌作成に芝会議のメンバーが参加しています。
中原晃治／渡辺芳子／桑原庸嘉子／佐多直明／鈴木あかね

芝地区地域情報誌の配布について

芝地区総合支所【芝、海岸1丁目、東新橋、新橋、西新橋、三田1～3丁目、浜松町、芝大門、芝公園、虎ノ門、愛宕】内の地域の方にお届けしているほか、地区内各施設にて配布しています。

港区芝地区総合支所地区政策課

所在地：〒105-8511 東京都港区芝公園1丁目5番25号(港区役所2階)
TEL：03-3578-3191 FAX：03-3578-3180
ホームページ：http://www.city.minato.tokyo.jp/sisyo/siba/